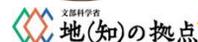


Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



留学生
定着WG

外国人留学生と県内企業の合同企業説明会が開催されました！

4月20日(土)に外国人留学生を対象とした合同企業説明会を福井県国際交流会館で開催し、県内各大学を中心に外国人留学生52名と、グローバル化を進めている福井県企業17社が参加しました。

留学生には事前に参加企業が作成した留学生向け企業情報冊子を配布し、各社の「企業概要」、「求める人材」、「キャリアパス」、「ブースでの対応可能言語」に関する情報をチェックして頂いたうえで、情報交換・交流を図って頂きました。

今回で3回目となる本説明会では、約半数の企業ブースで先輩外国人社員が参加し、英語や現地語で活発な情報交換が行われていました。

参加した留学生へのアンケートでは約8割の留学生が福井県への就職を視野に入れていると回答して頂いています。

昨年は説明会をきっかけに約12名の留学生が福井県企業に内定し、就職に繋がっています。



合同企業説明会の様子

今後も交流会や留学生の個別企業訪問といった、企業と留学生との出会いの場をご提供することで、地元福井の活性化につながればと考えております。

本イベントの開催にあたり県内各大学様の多大なご協力を賜り、誠に有難うございました。今後も県内各大学様のご協力を賜れば幸いです。



交流会の様子

(株式会社福井銀行 海外支援チーム 中野様、石川様より寄稿いただきました。)

学生必読！

シリーズ「ふくい地域創生士®」～令和元年度認定に向け、順次説明開始！～

申請開始時期は大学や学部により異なります。夏休み明けの9月開始の大学もあります、掲示版等をお見逃しなく！

【コーディネーターのちょっこし耳よりなお話し】

Q1. ところで、「ふくい地域創生士®」の認定を受けた第1期生、50名の就活はどうなったの？

A1. 資格欄に記載し、面接等で話が盛り上がる等就活で活用した事例も聞いています。その結果、なんと！25名の方が福井県内に就職し、また10名の方が福井県内に進学しました。認定者の約7割(35名)の方が、福井県に残り、活躍されています。地方創生に向けて頑張っていたかと期待しています。

Q2. どうして、先輩はこの認定制度にチャレンジしたのか？

A2. 自らの地域を、再認識・評価できるようになるだけでなく、地元が福井ではなくても地域を学ぶプロセスは自分の力になり、多様な経験を通じて、価値観が変わると感じたからです！

Q3. 申請書はどこで入手可能なの？何を書くの？

A3. 各大学窓口のほか右記「ふくいCOC+ホームページ」からも入手可能です。(→)



注目！



舟木

コーディネーター

「科学技術と社会」～「モノづくり」「コトづくり」「ヒトづくり」できる人材を育成します～

「科学技術と社会」は、前期の毎週火曜日の5限目にFスクエア(アオッサ7階)で開講している授業です。内容は、担当者が企業の技術者での経験、大学での技術者入門授業や技術者倫理教育の経験を踏まえて、科学と技術の違い、技術者の役割と職務、技術の発展の歴史などを授業担当者の発問やグループでの話し合いを通じて学んでいくものです。さらに、福井の将来のことを考えてもらうために、産業の歴史、福井の交通・物流の歴史、産業や工芸の歴史、災害の歴史などを学んでいきます。後半ではグループに分かれて、興味のある企業の歴史と現状を調べます。それに基づき、福井の企業での将来の製品・サービス、福井の発展などに関する提案を考えて発表します。



授業の様子

毎年15名～20名程度の方が受講しています。しかし、福井大学の学生が多く、福井県立大学や福井工業大学等の学生はわずかです。異なる大学の様々な専門の学生の交流や大学教員として、様々な学生を知る場として期待していたので、その点が非常に残念に思います。来年はぜひ福井大学以外の学生も受講してほしいと思っています。

(福井大学 学術研究院工学系部門 物理工学講座 教授 葛生伸先生より寄稿いただきました。)

“地域産業の強み”“連携大学の特色”を活かした人材育成に取り組む成果物が出来ました！



「半夏生鯖物語（はげっしょさばものがたり）」 バイオ・六次産業化分野WG

大野市の食文化である半夏生鯖について、そのいわれを絵本にまとめました。半夏生の日に大人から子どもまで鯖をまるごと1本食べる風習をみなさんに知ってもらいたいと思い、学生と一っしょに制作しました。文章を本学の石川昭義教授と担当し、絵を学生に描いてもらいました。

今後、地域の小学校、幼稚園、図書館等に配布する予定です。

(仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授 伊東知之先生より寄稿いただきました。)

「平成30年度ワーキンググループ活動報告書」 看護福祉分野WG

3大学が連携して活動している分野です。「原子力災害に対応できる人材の育成」では、3大学がそれぞれ工夫して開設している放射線看護や原子力災害に関する科目を3大学が、TV会議システムを使用して公開し、学生が自分の大学にて授業に参加できるようにしました。また、「看護と福祉が協働して活動できる人材の育成」に向けては、公開講座を開催、現場で実際活動している3名の方に、連携の実際、課題等についてお話していただきました。約170名の学生の参加があり、関心が深まったとの意見が多く得られ、充実したものとなりました。継続の重要性を感じています。

(敦賀市立看護大学 看護学部 看護学科 教授 高原美樹子先生より寄稿いただきました。)



「だから、福井で暮らしたい。」 ふくいブランド創出分野WG

私たちのWGでは、これまでの活動をまとめた報告書をちょっと早めに完成しました。この手の成果報告書では、調査データや学術的なレポートをまとめたお堅めの報告書を刊行することが一般的です。ですが今回の活動の目的を考えると、ぜひ多くの方に実際に読んでいただける気軽な読み物にしたいと考え、編集やデザインを担当してくれた学生たちと工夫を重ねました。

今年予定している成果発表会の会場で、たくさんの方に手渡しできる日を楽しみにしています。

(福井工業大学 環境情報学部 デザイン学科 教授 川島洋一先生より寄稿いただきました。)



編集後記

5月から新しい元号「令和」になりました。平成と令和をまたいで取り組んでいるCOC+は、5年目を迎えました。全国的には地方から大都市圏への人口流出の動きは変わっていませんが、これまで「ふくい」で積み上げてきた大学・自治体・産業界・医療界との連携基盤を活用した成果が今月号に多数報告されています。今年度も各WGからの活動報告の掲載が楽しみです。(小林)

